

氏名	何 晨
学位の種類	博士（観光学）
報告番号	甲第441号
学位授与年月日	2016年9月19日
学位授与の要件	学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号) 第4条第1項該当
学位論文題目	北京・什刹海の歴史文化保護地区における観光化に関する研究 —観光要素サブ・ファクター間の相互作用に注目して—
審査委員	(主査) 杜 国慶 松村 公明 佐藤 大祐 谷野 典之 (立教大学大学院文学研究科教授)

I. 論文の内容の要旨

(1) 論文の構成

第1章 序論

第1節 研究の背景と目的

第2節 先行研究の整理

1. 旧市街地における歴史・文化資源を活用した観光開発
2. 水辺空間を活用した観光開発
3. 北京の胡同を活用した観光開発
4. 本研究の視座

第3節 観光要素の整理と研究課題

1. 観光要素のサブ・ファクターの定義
2. サブ・ファクターの概念を用いた先行研究の整理

第4節 研究方法

1. 研究の枠組み
2. 研究の手順

第5節 研究対象地域の概要

第2章 北京市の概要と都市開発

第1節 北京の概要

第2節 自然・歴史文化資源の分布

1. 自然資源
2. 歴史文化資源の分布

第3節 都市再開発と自然・歴史文化資源の消失

1. 都市再開発事業の拡大
2. 四合院および胡同の消失

第4節 北京市における歴史文化保護区の制定

1. 歴史文化保護区の概要
2. 歴史文化保護区の詳細規定
3. 各歴史文化保護区の特徴と什刹海の位置づけ

第3章 什刹海歴史文化保護区の概要と観光要素

第1節 什刹海の概要

1. 什刹海の歴史と文化資源の集積
2. 現在の土地利用

第2節 地域の構成要素

1. 自然環境
 2. 人文環境
 3. 自然環境・人文環境の整備
- 第3節 環境保護および地域開発に関する政策
- 第4節 観光客の変化
- 第5節 観光化の時期区分
- 第4章 水辺空間を活用した観光開発
- 第1節 水辺観光の概要と研究方法
1. 水辺観光の概要
 2. 研究方法
 3. 水辺観光における観光化の推移
- 第2節 観光萌芽期における什刹海沿岸部の概要
1. 「北京旧城25カ所歴史文化保護区保護計画」による自然と歴史・文化資源の保全
 2. 観光客
- 第3節 観光発展期における外部インパクトの発生と観光化の進展
1. 外部インパクトに伴う観光要素サブ・ファクターの変容
 2. 新たな観光客体サブ・ファクターの形成
 3. 事例研究：湖岸における地方出身者店舗（B氏）
 4. 観光客の構成
- 第4節 観光転換期における水辺観光の変容
1. 環境保護政策の再強化と観光政策サブ・ファクターの転換
 2. 自然資源および歴史・文化資源の保全と観光施設の再規制
 3. 観光客の構成
- 第5節 観光客体サブ・ファクターの変遷要因
1. 経営者の経年変化
 2. 業種および店舗面積と経営者の関係
 3. 経営者の入れ替わりと観光客体サブ・ファクターの変化
- 第6節 水辺観光における観光化のプロセスの整理
- 第5章 生活空間を活用した胡同観光
- 第1節 胡同観光の概要
1. 概要
 2. 胡同観光導入の経緯
 3. 研究方法
 4. 胡同観光における観光化の推移
- 第2節 観光萌芽期における胡同の概要
1. 「北京旧城25カ所歴史文化保護区保護計画」の制定

- 2. 自然資源および歴史・文化資源の保護と胡同観光の基盤形成
- 3. 観光客
- 第3節 観光発展期における外部インパクトの発生と観光政策サブ・ファクターの形成
 - 1. 観光発展期における外部インパクト
 - 2. 観光客体サブ・ファクターの拡大
 - 3. 観光客の増加
- 第4節 観光転換期における胡同観光の変容
 - 1. 観光転換期における外部要因
 - 2. 自然および歴史・文化資源の保護と、胡同観光の多様化
 - 3. 観光主体
- 第5節 胡同観光における観光客体サブ・ファクターの変化
 - 1. 受け入れ世帯の経年変化
 - 2. 規模別にみた観光客受け入れ世帯の特徴
 - 3. 観光客受け入れ世帯の入れ替わりと観光客体サブ・ファクターの変化
- 第6節 胡同観光におけるサブ・ファクターの構成と相互作用
- 第6章 什刹海歴史文化保護区における観光化のプロセス
 - 第1節 水辺観光と胡同観光の結びつき
 - 第2節 観光要素サブ・ファクターを基にした観光化の考察
 - 1. 観光萌芽期
 - 2. 観光発展期
 - 3. 観光転換期
- 第7章 歴史文化保護地区の観光化メカニズム
 - 第1節 歴史文化保護地区の観光化メカニズム
 - 第2節 本研究で得られた知見の一般性
 - 第3節 研究の課題
- 参考文献
- 付録
- 謝辞

(2) 論文の内容要旨

経済成長に伴う都市の再開発が続く北京では、伝統的な町並みの消失という問題も顕在化してきた。なかでも、住民の生活空間である胡同や、憩いの場としての緑地帯の消失が著しい。北京市政府は1990年代に旧城歴史文化保護区を設定し、伝統的な町並みや自然環境の保護および保全を進めている。什刹海は、北京旧市街地中心部の湖であり、湖畔には緑地帯や胡同、庭園が数多く集積し、歴史文化保護区に登録された。同地域では、湖畔に集積

したバーなどで余暇時間を過ごす水辺観光と、胡同や水辺を人力三輪車などで回遊する胡同観光が1990年以降に発達してきた。

本論文は、什刹海歴史文化保護区を事例として、観光化のプロセスおよび要因を観光要素に着目して解明することを試みた。分析には、観光要素サブ・ファクターの概念を提起して応用し、観光政策と観光客体、観光主体各々のサブ・ファクターおよび相互関係を、現地調査と文献レビューを通して明らかにしたうえで、観光化の経年的な変化を考察して、観光要素が観光空間の形成と変容に及ぼすメカニズムを解明した。

第1章では、研究の背景と目的を述べ、先行研究を整理する。観光は各種の観光施設や観光資源、観光客、観光振興の政策など、様々な観光要素から構成されている。観光化のプロセスを解明するためには、観光開発を時系列に整理するだけでなく、観光要素を詳細に考察し、観光要素の相互作用を分析する必要がある。そこで、観光要素のサブ・ファクターとは、地域における自然・人文環境、来訪者、および政策を形作る様々な構成要素のなかで、当該地域の観光化に寄与する観光主体、観光客体、観光政策各々の下位要素と定義する。

第2章では、北京の概要を把握するとともに、什刹海における観光開発の前提である北京旧城の社会環境を分析する。北京旧城の地理的条件と自然資源、歴史・文化資源を整理し、都市再開発事業とその過程で生じた胡同の消失を考察したうえで、歴史文化保護区の策定プロセスを解明する。1990年に施行された北京歴史文化保護区制度を詳細に把握することによって、什刹海は33の歴史文化保護区のなかでも伝統建築物や水辺といった自然資源および歴史・文化資源に恵まれ、かつ建物の修繕もエリア一帯で実施され、観光化が進んでいることが分った。また、什刹海歴史文化保護区には、胡同と水辺といった人々の生活に根付いた自然資源および歴史・文化資源が卓越し、本研究の対象地域として最適であると判断する。

第3章は、什刹海歴史文化保護区における歴史および地理的特徴を把握した後、自然・人文環境の構成要素、環境保護および地域振興に関する諸政策、当該地域の来訪者の状況を整理する。第一に、什刹海の歴史的変遷を分析し、什刹海の機能が変化する中で、多様な構成要素の集積状況を解明する。第二に、什刹海地域における構成要素を自然環境（水辺空間と緑地帯）と人文環境（水辺の歴史的空間、住民の伝統的な生活空間、観光施設）から分析する。第三に、什刹海歴史文化保護区における諸政策は、自然および歴史・文化財保護政策、観光振興政策、都市発展政策、およびその他に分けて整理し、什刹海歴史文化保護区における環境保全及び開発に関する主な政策の概要と、具体的な法律および制度をまとめる。最後に、什刹海歴史文化保護区における政策、自然・人文環境の構成要素、観光客の変遷の分析をふまえて、什刹海の観光化を観光萌芽期（2002年以前）、観光発展期（2003～07年）、観光転換期（2008年以降）という3つの時期に区分する。

第4章は、水辺観光を詳細に分析する。研究対象地域の概観を把握した後、時期ごとに観光主体、観光客体、および観光政策の内容と相互関連について考察し、水辺観光における観

光要素サブ・ファクターの構成と相互作用を解明する。

第5章では、胡同観光における観光化プロセスと観光要素サブ・ファクターの影響を、時期別に考察する。まず、観光萌芽期において、胡同で強い影響を与えた観光保護および地域振興に関する政策は、水辺と同様に、「北京旧城25カ所歴史文化保護区保護計画」制度であることが分かる。この制度により四合院の建築物や胡同の景観が保持されてきた。観光萌芽期において、人力三輪車の利用者および観光客受け入れ世帯は僅かであり、胡同観光という一つの観光形態を構築するほどの規模には至っていなかった。観光発展期では、「北京旧城歴史文化保護区における家屋保護と修繕工作の若干規定」や「企業と個人の北京旧城歴史文化保護区の四合院などの家屋の購入を奨励する試行規定の通知」、「危旧房改造中四合院の保護の強化に関する若干意見」、「北京オリンピック行動計画」が、観光政策のサブ・ファクターとして機能し、当該地の観光化に大きく寄与した。転換期には、「北京市人力客運三輪車の胡同観光特別許可経営に関する若干規定」と「人力三輪車無許可経営と違法運行の法的取り締まりに関する通告」は、人力三輪車会社に強く働きかけることで胡同観光を大きく変容させた。また、観光客受け入れ世帯の属性、世帯の規模と時期区分の間には明確な相関関係が存在することが確認できる。

第6章は、水辺観光と胡同観光の相互関係を検討するとともに、什刹海歴史文化保護区における観光化プロセスを、観光要素サブ・ファクター間の相互作用に着眼して整理する。水辺観光と胡同観光は、観光政策、観光客体、観光主体のいずれのサブ・ファクターにおいても強い相互関係が存在する。

第7章は、歴史文化保護地区における観光化のメカニズムをまとめ、本研究の意義と今後の研究課題を論述する。

Ⅱ．論文審査の結果の要旨

(1) 論文の特徴

本申請論文の論点は、これまで論じられてきた政府主導型の観光開発が重要な位置を占める中国の観光化において、民間の自発的な観光開発に着目し、観光の主体と客体、政策の三要素の相互関係による観光化のメカニズムを解明することであり、大きな研究上の貢献とみなすことと考えられる。また、観光要素をサブ・ファクターに細分することによって、より詳細な考察ができたことは申請者のオリジナリティーでもあり、従来の研究に新たな知見を付け加えたと評価できる。さらに、研究の枠組みは定石で安定しており、方法もインタビューや定点観察などの1次データに基づいており独自性・信頼性が高いことは、研究の価値を高めた。

(2) 論文の評価

審査会では、複雑に絡み合った現象を分かりやすく分析しきれていないことなどについて指摘されたが、申請者が真摯に対応し修正を行い、研究の改善に努めた。最終試験では、用語の厳密性と中国語古典の日本語表記、論文構成の配分について指摘されたものの、本申請論文で明らかになった研究上の貢献を損なうものではなく、今後本論文の成果をより精密化し発展させていく方向性をもつものと審査委員が判断した。そして、本論文の観光研究としての独自性と研究上の貢献を評価し、今後さらなる発展の余地を残し、観光研究に貢献するものとして、博士の学位に相当するとの見解で一致した。